

平成 28年度 保育園評価書(ひえい平保育園)

めざす人間像

○優しく思いやりのある子ども ○満足するまで夢中になって遊ぶ子ども ○のびのびと自分らしく表現する子ども ○心も身体も健康な子ども ○ハート(心)のふるさと地域を愛する子ども

大項目	中項目	NO	小項目	自己評価				
				小項目 評定	中項目 評定	現況 (園の特徴、特色など評価できる事項)	今後取り組むべき検討課題など	
子どもの 発達援助	発達援助の基本	1	園の理念や方針を理解し、地域性を考慮した指導計画の作成	A	A	○幼保一体化施設としての特徴や小規模学区の地域性を捉えて、『保育・教育目標』を設定している。 ○2週間案を利用して指導計画を立案し、日々の振り返りや保育準備につなげ、発達に即した保育の展開を行っている。	○H30年度に幼稚園の3歳児保育も始まるので、早急に3歳児の保育課程を見直し、幼保共通カリキュラムを活かした保育の取り組みを進めていく。	
		2	保育課程や指導計画の見直しの実施と保育への反映	B				
	生きる力の基礎の育成		3	基本的生活習慣の育成	A	A	○幼稚園の園舎を改築しているため、2・3歳児の生活動線に無理が生じている。担任保育者だけでなく、保健・用務・調理担当とともに、子どもが生活しやすい環境づくりをしている ○年齢別保育を基本としているが、少人数で集団の変化がないまま小学校の6年間を過ごすことになるため、夏の保育や後半の昼からの保育でたてわりグループや異年齢の交流を大切に、一人ひとりの子どもが光る場面づくりをしている。 ○保育の中で子どもたちの「考える姿」を捉え、環境や援助について学びあっている。	○後半の4.5歳児の午後の過ごし方について検討した。子どもの姿に合わせて何が必要か見極め、その都度検討、確認し職員間の納得の下保育を進めていく。また、今まで大切にしてきたことなどを知らせながら、保育内容の継承に努める。 ○未満児クラスは大人との愛着関係を基本に一人ひとりの生活リズムを大切にすることが幼保の職員で再確認できている。
			4	一人ひとりの生活リズムに合わせた保育への配慮	A			
			5	自発的に活動できる環境作り	A			
			6	遊びや生活を通しての人間関係の育み	A			
			7	自分に手ごたえを感じられる保育の取り組み	A			
	一人ひとりを大切に する保育の 推進		8	一人ひとりの人格の尊重と互いに認め合える関係を大切に する保育	A	A	○年齢発達に応じたかかわりをする中で、子ども同士のトラブルを見守ったり、互いの思いに共感し子ども同士の折り合いがつけられる力が育つようにしている。 ○一人ひとりの子どもの発達課題を見出し、関係機関と連携を図りながら、子どもと保護者の支援を進めている。(発達相談員・すこやか相談・子ども家庭相談室など) ○2時以降の過ごし方を「ゆったりタイム」として考え、少人数でゆったりと過ごせる環境を整えてきた。今年度は幼稚園の「なかよし(預かり保育)」とともに過ごす機会としている。 ○幼稚園籍にて、一時帰国の園児を受け入れている。	○園内研修を通して、発達の学びを深めている。一人ひとりの課題や、働きかけの共有まではできていなかった。 ○年間3回人権研修を行い、職員の人権意識を高めている。子どもや保護者の思いがどこにあるのか、人の気持ちがわかる職員集団になるよう、日々研鑽を積んでいく ○CAPプログラムの講習をうけているが、保護者の参加は少ない。人権について、保護者にも考えてもらえるような発信が必要である。
			9	障害児の個別への配慮と関係機関との連携の充実	A			
			10	性差への固定的な観念や性別役割分業意識を植え付けない保育	A			
			11	文化の違いを認め互いを尊重し合える関係作り	A			
			12	長時間保育の実施とゆったりと過ごせる環境作り	A			
	豊かな心をはぐくむ 保育の推進		13	一人ひとりへの温かな言葉かけと関わりによる情緒の安定	A	A	○「だいらっこの森」「青い鳥の谷」「どんぐりの森」「市民グラウンド土手」など地域の自然環境と関わる機会をもってきている。 ○昆虫の飼育の手作りのビオトープにてメダカやカエルの飼育、畑やプランターでの栽培に取組み、最後まで面倒をみたり食べたりするプロセスを大切にしている	○子どもたちへの声かけや寄り添い方など、日々の保育を振り返る機会を持ち、互いの姿を見合うことも大切にしていく。 ○食事に関する行儀作法の大切さを保護者にも伝え、子どもへの関わり方が共有できるようにする。
			14	身近な自然や環境を活かした保育	A			
			15	食育を通して、命あるものへのいたわりや愛情の育み	A			
	職員の資質の向上		16	園内研修の実施と自己を高め合う集団作り	A	A	○子どもの姿、課題に合わせてテーマを設定し、保育公開と事例検討に取り組むことができた。 ○一人ひとりの要求に合わせて研修参加をし、プレゼン報告をすることで、職員の専門性の向上につながっている。 ○PDCAを念頭において、自主的に振り返りに取り組んでいる	○園内研究で検証したことを次年度につなげる内容にしていく。また、やまのこひろばの取組を津市市全体のものとなるよう、発信していく。
			17	今日的な課題に関する意識と専門性の向上	A			
			18	自己評価における分析と改善に向けての取組み	A			
	安全・衛生管理の整備		19	健康や衛生面に配慮し、心地よく過ごせる環境の整備	A	A	○保健担当・用務担当を中心に、日々衛生面に配慮して、大きな感染症の流行はなかった。感染症の罹患者が発生した場合、合同保育を避けるなど感染拡大の予防に努めた。 ○小学校との合同避難訓練、引渡し訓練、朝夕など様々な想定をして訓練を行っている	○サーベイランスの導入で園内や地域の状況がわかりやすくなった。感染症対応マニュアルを職員間で再度確かめ意識を高めていきたい。
			20	緊急時の対応など安全確保のための整備	A			

大項目	中項目	NO	小項目	自己評価			
				小項目 評価	中項目 評価	現況 (園の特徴、特色など評価できる事項)	今後取り組むべき検討課題など
子育て支援	子育て相談	21	日常的な子育ての相談・助言などの実施	A	A	○日々の送迎時に子どもの様子を伝え、保護者の思いを聞くようにしている。 ○月に1回以上クラスだよりを発行する。園全体に対してトピックスとして写真を利用した掲示を行っている。 ○ホームページの立ち上げを通して情報発信をする	○引き続き、丁寧に情報提供を行う。
	情報提供	22	おたより等による子育てに必要な情報の提供	A			
	保育内容の理解	23	子どもの様子や保育の意図の説明・保護者との相互理解	A	A	○年度当初のクラス懇談会やクラスだよりで保育の意図を伝えている。 また、ポートフォリオを取り入れることにより、保護者と共に子どもの課題について考える機会をもった。 ○選択参観で園内研修にて学んでいる子ども姿について考えてもらい、遊びの価値を知ってもらう機会となる。	○ポートフォリオの取り組みが保護者への発信に有効であることはわかったが、次年度どのような発信ができるか発信力が低下しない方法を検討する。
	子育て文化の伝承	24	保護者が参加する行事などによる親子体験の実施	A			
		25	懇談会などによる保護者同士の交流	A			
	保護者連携	26	関係機関と連携した要保護家庭に対する適切な対応	A	A	○保護者との連絡を定期的にとり、保護者の不安に寄り添えるようにしている。また、他機関と連携をとり、支援の方法を考えている ○わたげの会(障害児親の会)や学習会の誘いを行っている	○保護者と関係機関をつないだり、情報を共有したりしながら今後の支援について考える機会が増えている。
		27	障害のある子ども、配慮を要する子どもをもつ保護者への対応	A			
多様な保育	28	延長保育・スポット保育などの実施	A	A	○延長保育時は同じハート保育士がかかわりゆったりタイムとして、家庭的な雰囲気大切にしている	○途中入所の希望に、職員数の確保ができず応じられていない。	
地域との関わり・連携	保育園評価	29	協力者会議の実施	A			
		30	保育園評価の実施(公表)	A	A	○年間3回協力者会議を行い、園の取組や保護者アンケート及び自己評価の公表、保育参観(運動会・作品展・発表会)を通して、園理解を深めていただいている	○「やまのこひろば」として5年目を迎え、幼保の職員が協力し合っている様子が伺えると一定の評価をいただいている。今後も園の取組を発信していくとともに、様々な面で地域とつながっていくようにしていく。
		31	自己評価の実施(公表)	A			
	地域(社会)貢献	32	ステーション事業(子育て支援)の実施	A	A	○比較平岡地内でも未就園児が増え、地域でただ一つの子育てステーションとしての機能が高まっている。 ○特に、地域に住む職員に災害時の対応や災害備品の保管場所などを周知し、災害時に混乱が起きないように備える。 ○緊急時の対応として、園の役割を考え、職員も地域の防災訓練に参加しているが、園児と地域との連携まではいたっていない	○未就園児のなかに、発達の配慮が必要な子どもや育児不安を抱える母親が増えてきていることが気になっている。子育て事業に参加しているときから、子どもや保護者の姿をキャッチし見守りや支援をし、必要に応じて他機関とつないでいくことが必要かと考える
		33	全戸訪問事業の実施	A			
		34	災害対応機能の役割・AED設置	A			
	人とのつながり	35	地域の自治組織との防災連携	B			
		36	老人クラブとの交流や地域行事への参加・参	A	A	○年4回老人クラブとの交流をもっている(七夕・焼いも・落語鑑賞・ひなまつり) ○職場体験・ボランティアを受け入れている	○狭い地域で人のかかわりが限られているので、今後も様々な人のかかわりを大切にして子どもたちも地域に出る機会を持っていく
	保幼小中連携活動	37	職場体験・実習・ボランティアの受け入れ	A			
38		子どもの交流(あそびや行事の取り組みなど)	A	A	○4・5歳児と小学校3・4・5年生が交流を深めている。職員間でも研究授業・保育の話し合いを持ち始めている ○子どもの人権について全国に発信する(全人教)機会もあり、小学校との丁寧な引き継ぎをする必要を感じている。	○小学校との連携は深まってきているが、中学校とは距離があるので、交流は難しさがある。 ○中学校区の教育研究会では、保幼小中高の学びあいがあるので、今後も積極的に参加していく。	
		39	職員交流(子どもの育ちや保護者支援・行事の取り組み)	A			

評価(達成度)の目安

達成度	指 標
A	十分達成できている
B	達成または概ね達成できている
C	やや改善の必要がある
D	改善の必要がある